

# 2023 年度 活動計画

## 1. 技術開発事業（開発委員会）

### （1）BIMCAD サンプル物件検証（複数年度事業）

BIMCAD メーカー 5 社に入力いただいた「2 階建て木造サンプル物件」の IFC ファイルの提供を受け、IFC2CEDXM 検証用変換テストアプリにより、CEDXM Ver4.0 へ変換し、その結果を評価検証することで、下記①～③につなげる。

なお、2022 年度当初は、構造のみの一覧を完成させ、結果により各 CEDXMCAD メーカーによる最終検証の後、BIMCAD メーカーへ回答予定だったが、BIMCAD は構造のみを意識しているものではないため、壁情報、開口情報の変換検証結果も合わせて報告することが重要である。

そのため、壁情報、開口情報のロジックが完成し次第、提供いただいた IFC ファイルを IFC2CEDXM 検証用変換テストアプリにより CEDXM Ver4.0 へ変換し、その結果を CEDXMCAD メーカー各社にアプリでの検証を依頼する。その後、検証いただいた各社によるワーキングを開催し、上記報告の確認とともに、BIMCAD 側に対して、入力に関する要求事項をまとめる。

また、その結果を IFC ファイルを提供いただいた BIMCAD メーカー各社に報告する（またはワーキングを開催する）。

#### ① 「IFC2CEDXM アプリ開発仕様書 Ver3.0」の開発

開口情報の 3D 形状変換ロジックはほぼ完成しており、標準的な壁情報の変換仕様は固まってきている。現在は、妻壁の変換仕様を検討中であり、壁情報、開口情報の変換ロジックの完成は 2023 年度内を予定している。

今後、屋根情報の変換仕様確定後に IFC2CEDXM アプリ開発委員会の開催を予定している。

#### ② Cedxm\_Pset\_param の拡充

IFC2CEDXM アプリ開発仕様書 ver3.0 の完成を待って、拡充を進めていく。

なお、（公財）日本住宅・木材技術センターでの委員会（林野庁委託事業、以下、委員会）で検討されている業界標準プロパティと重複する内容については、委員会決定内容を優先して活用していく。

### ③ BIMCAD でプレカット構造計算連携を目的に木造建築を入力する際の注意事項一覧の VersionUP

「IFC2CEDXM アプリ開発仕様書 Ver3.0」の開発において壁や開口などの変換仕様を作成する過程で、個人レベルによる入力ミス、壁の座標定義が異なっていることを確認しており、このことから BIM の入力時の標準手順が必須と考えている。また、標準的な入力を行うことでアプリ開発費用が大幅に削減されると考えられる。

そこで、2023 年度は国内で利用されている BIMCAD メーカーに入力に関するヒアリングを行う。

なお、外部委員会活動でも標準的な入力方法を決めていく予定があるため、重複する部分に関しては外部委員会決定事項を優先していく。

本件は、「IFC2CEDXM アプリ開発仕様書 Ver3.0」開発後に着手する。

### ④一般社団法人日本 CLT 協会内において D X W G へ参画 (新規／3 カ年計画 (進捗により延長あり))

一般社団法人日本 CLT 協会内の新たなワーキング(主査:当評議会 森開発委員長)では、意匠、構造、製造、加工、施工間の木材建築データ連携、各要素の属性定義の開発及び付随する案件に関わる調査・開発を進めることとなった。

国内においては、意匠、構造、製造、加工、施工間の木材建築データ連携手法における中大規模、ビルディングの木質系等の標準フローがないことから、各工程間において非連携の状況が見受けられるため、開発委員会と並行して、国内の状況把握及びヨーロッパにおける現状を調査し、日本における標準的な連携フローの開発とともに、並行して各要素の属性定義を開発する。

なお、ヨーロッパにおける現状調査内容に関しては、報告書にまとめ次第、当評議会においても公開する。

## (2) 外部委員会活動

(公財)日本住宅・木材技術センター(林野庁委託事業)において、木質系要素入力時のプロパティセットの標準化へ参画する。

さらに、国土交通省・BIM 活用推進協議会情報基盤整備部会の活動にも参画する。

## 2. 情報提供事業

### (1) 各社の CEDXM 連携状況の実態調査 (継続)

2021 年度より、同一の CAD で同じ結果が得られるという前提のもとに、他社 CAD との連携精度の向上を目的とした調査を行っている。

すでに、プレカット CAD、意匠 CAD、構造 CAD のメーカー各社を対象とした、CEDXM のチェック項目についての対応状況について調査を行っている (P.8：普及広報委員会活動報告参照)。

調査結果からは構造材配置などの連携は良好だが、垂れ壁・腰壁などの連携がうまくいっていないことがわかる。この点の改善を図るために、意匠 CAD で入力した垂れ壁・腰壁を CEDXM で吐き出した後、プレカット CAD で取り込んだ際の再現状況の調査・検証を行い、CAD メーカー各社へアプリの改善を促す。

### (2) 連携実態調査の結果の各社マニュアル作成 (継続)

アプリを改良しない範囲で入力間違いを防ぐための各社マニュアルは既に作成し公開しているが、データ連携をより意識した箇所を詳細にまとめ、CEDXM 出力の注意点を洗い出すための詳細マニュアル (またはチェックシート) を作成する。

### (3) CEDXM 入出力可能プレカット工場掲載数の拡充 (継続)

当評議会のホームページに公開されている CEDXM 入出力可能プレカット工場の掲載数を拡充するため、各プレカット工場へ掲載・情報提供依頼を進めていく。

### (4) 評議会ホームページの更新

ホームページが 2018 年にリニューアルされてから 5 年が経過する。掲載情報・会員数が増えてきていること、また掲載内容が見つけにくくなってきていることから、ホームページを一部更新する。

## 3. その他

### (1) 総会・基調講演の開催

日時：2023年6月14日（水）午後2時30分より

会場：ハイブリッド方式（A P東京八重洲 S会議室／zoom 利用）

プログラム：14：30～15：15 2023年度通常総会

15：30～17：00 基調講演「森林産業化と情報連携」

講師・塩地博文氏（ウッドステーション(株) 代表取締役会長）

### (2) 理事会の開催

事業の進捗状況により年4～5回の開催を予定する。

### (3) 情報発信

評議会ホームページ、メール等により随時会員、一般への情報発信を行う。また、メディアからの情報提供も随時行っていく。